

第1回極地設営工学シンポジウムの概要

楠 宏*

An Outline of the First Symposium on Polar Logistics

Kou KUSUNOKI*

昭和48年9月に発足した国立極地研究所には客員研究部門として寒地工学研究部門（後に極地設営工学研究部門と改称）が置かれ、所外の国立大学などの研究者が配属された。主として南極地域観測隊に直接関係する設営諸分野の研究開発に当たってきた。また所の共同研究制度のもとに設営関係の共同研究が外部の研究者を中心に進められてきた。一方、国内の産業経済の発展とともに、極地や寒冷地に対する工学技術者の活動も活発となってきている。このような背景のもとに、国立極地研究所主催の第1回極地設営工学シンポジウムが、昭和59年3月16、17の両日、同所講堂において開かれた。

最初のシンポジウムであることから、話題の中心を南極観測に関係する設営工学の分野に置いた。シンポジウムへの参加を広く呼びかけるとともに、参加者の中には南極観測になじみが少ないことも予想されたので、特定の分野について総合報告を依頼するとともに、一般からの報告を募った。この結果、極地輸送工学6編、極地雪氷工学3編、極地エネルギー工学3編、極地建築・土木工学4編、極地人間工学4編、計20編の報告が提出され、最後に今後のシンポジウムのあり方と研究の進め方に関する総合討論を行った。

本号は「第1回極地設営工学シンポジウム特集号」として編集され、提出された論文中の13編と要旨1編が印刷されている。後日提出されたものは次号に掲載される予定である。本シンポジウムに参加された約100名の方々に感謝するとともに、編集実務の労をとられた国立極地研究所の図書室の方々にも感謝の意を表したい。

The First Symposium on Polar Logistics sponsored by the National Institute of Polar Research was held on March 16–17, 1984. Giving an emphasis on the logistics problems of the Japanese Antarctic Research Expedition, 20 papers are presented covering the topics on transportation (6 papers), ice engineering (3 papers), energy (3 papers), buildings (4 papers), and Antarctic provisions (4 papers). The present volume contains 13 papers and one abstract, and late papers will be published in the following volume.

* 国立極地研究所, National Institute of Polar Research, 9-10, Kaga 1-chome, Itabashi-ku, Tokyo 173.